目的別サプリメント

〈7～17面〉

キノコ類

アガリクス・カバノアナタケ・シイタケ

アガリクス・ブラゼイ協議会

安全性に関するガイドライン制定

薬事法違反による逮捕報道や一部製品の発がんプロモーション作用に関する厚生労働省の発表などで、ここ数年、アガリクス製品は激しいアゲンストの風にさらされてきたが、その一方で関係メーカーを中心に、市場正常化に向けての地道な努力が続けられている。

昨年九月に設立されたアガリクス・ブラゼイ協議会（竹口雅之会長＝エス・エス・アイ取締役）は今年二月、第一回総会を開き、初年度の活動方針を承認するとともに、原材料や個別製品の安全基準のほか、原材料の小核試験の実施や個別製品ごとに副原料を含まないことの実証、細菌類についての規定、さらにはトレースアビリティーなどを当初一年間の必須事項とする「アガリクス・ブラゼイの安全性に関するアガリクス・ブラゼイ協議会の自主ガイドライン」を制定した。

現在協議会では、このガイドラインを各企業に実施徹底させている。

同協議会の会員企業は、正会員十四社、賛助会員六社で構成され、公正な取引の確保やアガリクス・ブラゼイに関する研究・普及・振興を積極的に図り、全人類の健康増進に寄与することを目的としている。

関係メーカー

ユーザーに正しい情報提供し信頼回復

協議会活動が活発化する一方で、企業単位でも、市場回復に向けての積極的な取り組みがみられる。

日本ケミファ（本社東京都）では、「起死回生の手段をとることなく、基本に戻った販売戦略でユーザー一人ひとりに正しい情報を提供して、信頼を回復していくことが大切」（ヘルスケア部）として、「ヘルスケア業界に携わるすべての人に『アガリクス茸』なる固有のきのこは存在しないということをしっかり認識してもらいたい」と強調する。

かつて一世を風びしたアガリクス市場とは消費者不在の市場で、「だからこそ原点に返り、時間をかけてアガリクス・ブラゼイ・ムリルの真実を伝え、必要とされるユーザーに商品がスムーズに届けられるよう市場再構築に向けてしっかりと取り組みたい」と意欲を見せる。

全面的な信頼回復には今なお時間がかかりそうだが、そのための最短距離は、業界団体と関係企業の真摯（しんし）な努力にほかならない。